

「贖い」の原点

シリーズ～旧約聖書入門～

2012／3／4

エジプトで成就した約束

- アブラハムへの祝福の約束を守られた神
 - ヤコブ一家は不思議な方法でエジプトに移住
 - エジプトに430年間滞在し、70人であった人数が壮年男子だけで60万人になった
 - 当時エジプトは、ナイル川の恵みにより世界で最も安全で豊かな地域だった！
- 神がヤコブ一家をエジプトに導かれたのは、一時的に守るためではなく約束をまもるためであった
 - 「あなたの子孫を天の星のように、海辺の砂のように増やそう」創世記22:17

新たな試練

- ヤコブ一族が爆発的に増加したことは、エジプトにとって脅威となった
 - 「これ以上の増加を食い止めよう。一度戦争が起これば、敵側に付いて我々と戦い、この国を取るかもしれない」1:10
- ファラオは様々な方法で人口増加を食い止めようとした
 - 重労働を課した
 - 助産婦に男子が生まれたら殺すよう命じた
 - 男子ならナイル川に「ほうり込む」よう命じた

モーセの誕生と挫折

- 助けられ、育てられた男の子
 - レビの一族に男の子が生まれた
 - 両親はこの子をパピルスの籠に入れてナイル川に「ほうり込んだ」
 - **ファラオの娘**がこの子を拾い上げ、「**モーセ**」(引き上げる)と名付けて我が子とした
 - モーセは幼少期を実の両親の共で育ち、その後、王子としてエジプト最高の教育を受けた
- モーセは同胞を助けようとして失敗し、王に命を狙われ、ミディアンに逃げた

モーセの誕生と挫折

- 助けられ、育てられた男の子

神はご自分の計画を実行するために人を用いられるが、そのために人間社会の教育や、本人の経験など、
様々方法で訓練される。

エジプトに遣わされたモーセ

- 40年間羊を飼っていたモーセに、神は突然現れ、エジプトに行けと命じられた
 - 「わたしは、エジプトにいるわたしの民の苦しみをつぶさに見、追い使う者のゆえに叫ぶ彼らの叫び声を聞き、その痛みを知った。」3:8
- はじめは拒んだモーセだが、説得されエジプトに向かった
 - 「今、行きなさい。わたしはあなたをファラオのもとに遣わす。わが民イスラエルの人々をエジプトから連れ出すのだ。」3:10

エジプトにおける2人の敵

- ファラオ

- モーセはファラオに「イスラエルの神、**主**」の命令として、ユダヤ人を出国させろ、と言った
- ユダヤ人の人口増加を脅威に感じていたが、労働力を失いたくなかったので、拒絶した
- 更に、ユダヤ人を苦しめるため、「れんがを作るためのわら」を与えず、同量作るよう命じた

- ユダヤ人

- 労働を重くされたユダヤ人は、我々を殺すつもりか、とモーセに詰め寄った

主は9つの災いを下された

ナイル川

- ・ 血に変える
- ・ カエル

人と家畜

- ・ ぶよ
- ・ あぶ
- ・ 疫病
- ・ はれ物

農作物

- ・ 雹
- ・ いなご
- ・ 暗闇

災いはユダヤ人の住んでいる地域には
及ばなかった!

災いの目的

- 「主」が生きて働く本当の神であることを、エジプト人とユダヤ人に示すため
 - 430年間で薄らいでいた彼らの神を教える
- モーセが「主」に遣わされた使者であることを証明するため
- 人間や家畜が健康であったり、農作物が豊かに実ったりするのは「主」の恵みと守りがあるからであることを教えるため
 - 「主」は自然をも支配される神である

最後の災い

- 10番目の災いは「すべての初子が死ぬ」という恐ろしいものだった
- 災いを避けるためには、**小羊の血**を「家の入り口の二本の柱と鴨居に塗る」
 - 「主がエジプト人を撃つために巡るとき、鴨居と二本の柱に塗られた血を御覧になって、その入り口を過ぎ越される。」12:23
- 予告通りエジプト全土の初子が死んだ夜、ファラオはユダヤ人を行かせた

「贖い」の原点

- 初子の死を避けるために、「傷のない一歳の雄の羊（山羊）」を殺し、神の裁きを免れるという行為は、「代わりの命」によって命を救うという「贖い」（あがない）の原理のはじまりである
- 「人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。」ローマ3:23-24